

平成20年度 第1回 芦屋市生涯学習推進基本構想素案策定委員会 会議録

日 時	平成20年6月23日(月) 14:30~16:30
場 所	教育委員会室
出席者	委員長 小石 寛文 委員 江守 易世 ・ 柴沼 元 ・ 山下 正夫 ・ 若林 敬子 ・ 寺田 緑 ・ 山田 崇雄 ・ 林 哲也 欠席委員 本玉はじめ, 立花 暁夫 事務局 教育長, 社会教育部橋本部長, 生涯学習課田嶋主査, 北詰
事務局	生涯学習課
会議の公開	公開
傍聴者数	0人

1 会議次第

(1) 開会

(2) 議題

市民アンケート結果報告書について
 基本構想の骨子等について

(3) その他

2 会議資料

(1) 生涯学習に関する意識調査報告書

(2) 資料1 本市の概要

(3) 資料2 本市における生涯学習の現状と課題

(4) 資料3 芦屋市生涯学習推進基本構想(平成5年)生涯学習オアシス都市をめざして

3 審議経過

開会

(小石委員長) 開会のあいさつ

それでは議題1について事務局より説明をお願いします。

(田嶋主査) 市民アンケートの結果について報告書をもとに説明。

(小石委員長) ただいまの説明について質問はございますか。

(若林委員) アンケートはどれだけ信頼できるものなのですか。情報に左右されることは多々あり、時代がこうだという情報は様々なところから入ってくるので先入観というものもありますよね。本当の自分の生活に根ざした本音の部分でどれだけ回答を皆さんしてくれるのでしょうか。

(田嶋主査) 社会統計上アンケートの信頼性はあります。

(小石委員長) 職業別に聞いたりしていますが、これは答えやすいところに偏りはないのですか。地域の人口分布データの統計とほぼ同一ですか。市としてこれからのようにしていかなければならないのでしょうか。これ以外でも問題はあるのではないのでしょうか。

(林委員) 回答率とそれに伴う結果については市民の関心度に直結するものと考えていいものだと思います。問題は40%の回答率が市に対する関心度のバロメーターとしてでたのではないかと思っています。なぜ回答しないのか、していない人の意見をどう取り込んでいくのかということが重要であると思います。

(小石委員長) 自由記述の中にもおもしろい意見があります。その中に具体的なこともあるからそれは参考にしていけたらと思います。

(若林委員) 認知度は個人がどれだけアンテナを張っているかで情報の入り方が違います。自由回答の中のひとつに「ボランティア活動について、自分ができると、専門知識、能力等を登録してもらい、必要としている人や団体を紹介し、引き合わせるような組織があれば、活動が広がるのではないのでしょうか。もし既にあるのなら、もっとPRしてほしい」という意見がありますが、もう既に市として組織だったものがあるけど、知られていないからこれからもっとPRしていかなければいけないということですね。また、全員参加できる催しを自治会にできるだけ多く企画してほしいともありますが、小学校区でコミスクがあるので、イベントを頑張っているのだから参加をしてもらいたいと思います。

(小石委員長) いろいろな活動をしていてもそこが認知されていないということは使われないということですね。PRが足りないから、今後、どのように認知していくのが課題としてあります。

(柴沼委員) 生涯学習をやっていてボランティアとの関連が結びついていない生涯学習だけを行っています。結びつきを中ではなければならないと思います。

(小石委員長) できれば多くのことを学んでいただき、それをどう皆さんに還元するのかというサイクルがあれば、そこに関わっている人にやりがい生まれるのではないのでしょうか。

(山下委員) 芦屋市内には80の自治会があり、自治会の認知度が低いのではないかと思います。私のところの自治会では震災後なにかと集まりがあり、拠点とする場所でビアパーティーを毎年行っているところもあります。公園の清掃を行った際は、若い人も多く集まります。しかし、お手伝いをしてほしいと頼むと集まりが悪かったりします。ですから、ボランティアと生涯学習がうまく融合していないと思います。それと、広報活動が弱いのではないのでしょうか。広報を読む時間を作っていきたいと思います。

(小石委員長) 広報の問題ですが、なかなか読んでもらえないのでどうしたら読んでもらえるか知恵を絞らなければいけないですね。

(江守委員) P T Aが広報紙をだしていますが、一生懸命考えて発信していても読まない人はまったく読まないですね。

(小石委員長) 関心がない人が読まないのではなく、関心を持ってもらうことを広報していくためにはどうすればいいのかを、今回考えていかなければなりません。

(林委員) 市の広報は今回の回答の中では1番高くなっています。しかし、芦屋市の広報は他市に比べて情報が少ないのではないのでしょうか。行政への要望が多くきています。これは、行政として生涯学習をどう援助するかであり、これまでの市の生涯学習に対する姿勢が後ろ向きに感じられます。生涯学習の中心拠点となる市民会館や公民館の活動については資金の苦しさがあります。また、ルナホールの利用状況を見ましても市民センター活動も低下し、縮小してしまっています。1年ごとの人事異動にも問題があります。400ある文化団体のリーダー力を集めるような工夫をしてほしいです。

(若林委員) 人と人、組織と組織を結びつけるところが市民活動センターですね。まだできて間もないのでうまく機能していませんが、これからどんどん意見をだし合って前に進まないといけないと思います。

(柴沼委員) P Rの方法を拡充しなければいけないということです。

(小石委員長) まず、P Rをしなければいけないという問題意識は持たなければいけません。

(林委員) 基本構想の中身を実際に行わないと市民は納得しません。お金がない中でどうするのか、そこは行政がやらなければなりません。

(小石委員長) アイデアが出されるといいと思うのですが。

(山下委員) 市民活動センターは最近、活発化していますよ。

(小石委員長) どこにいけばそのような情報が得られますか。広報とはちがいますよね。

(若林委員) 本庁に情報誌などをおかないといけません。すべての接着材的な役割を担わないといけません。

(林委員) 市の様々な事業を可能な限り外部に委託するという概念があります。しかし、委託したことにより、一部にはサービスの悪化や不満が耳に入ることがあるため、市民に不安感があり、その裏返しが生かされてきています。

(柴沼委員) 市の受け付け対応が悪いです。

(林委員) 相談にのる体制ではないです。

(若林委員) 窓口に服装が合っていない女性などがいます。

(橋本部長) 市民活動センターの説明

(小石委員長) こういうものがどう生かされるかということです。考えていく必要があります。図書館は使われていますか。何かしていますか。

(橋本部長) 読み聞かせなどのイベント、映画会、音楽演奏などイベントを行っています。

(江守委員) 天体の話などもやっています。

(橋本部長) 元々図書館が生涯学習の場でしたが、今は市民活動センターが中心的です。文化振興財団が解体したことにより、人員を失ったところもあります。後退していることを認めません。

(小石委員長) 予算的な措置がないと活性化できないというものなのですか。

(橋本部長) 特にルナホール事業は人事異動も何回かありましたが、落ち着いてきました。提言していただいている部分で、市民センターの設置目的に最適な管理運営のあり方を追求しなければなりません。

(林委員) 基本構想の表現では、文化事業を情報提供するというと文言になりますよね。盗難事故や、事件・事故を含めて課題もある。前向きに捉えていけるのですか。

(橋本部長) 来年度, 市民センターのリニューアル工事にはいります。一定の期間閉める大工事になります。そのあと管理運営について考えていきます。専門的知識のあるところに委託する手段もあるのではないかと考えています。どれだけ市民に良いサービスを受けてもらえるのか模索したいと思います。

(寺田委員) 市民というより, 営利目的のものが多岐にわたります。PRに関しては学校を通して行えると思います。しかし, 学校を卒業した後の世代が情報を得にくくなっています。

(小石委員長) 工夫が必要ですね。

(山田委員) 定期的な調査, もっとクリエイティブな発想で市民のことを考えたアイデアをださなければいけないと思います。欲しい情報は自ら取りに行くという時代になりました。こういった情報がここにあるということをもっとPRしなければなりません。そして詳しいメニューも必要です。構想をもう一度精査し, メニューを整理し, 広報していかなければなりません。そのことをふまえて構想を推進していかなければならないと考えています。

(小石委員長) 時代的背景をふまえて, 活性化するためには何が必要なのか, どうくみ取っていくのか, スムーズに動かすか, どうPRしていくかが重要であるということですね。

(小石委員長) それでは議題 の基本構想の骨子等についてについて事務局より説明をお願いします。

(田嶋主査) 基本構想の骨子等について説明。

(若林委員) 「芦屋らしさ」って抽象的であり, 新しい視点が感じ取れなく個人的に好きではありません。新しい切り口で, 人を惹きつけるようなものでなければいけません。

(田嶋主査) 切り口に新しい風を入れながら, 惹きつけるものがないと思います。

(小石委員長) 「らしさ」という言葉にこだわる必要はないが, こういった街だったらしいというイメージは持ってもらったほうがいいのではないのでしょうか。

(若林委員) 地域力と言いますが, アンケートの結果を見ると, 地域の教育力が低下していると思う理由について, 「個人主義の浸透(他人との関与を歓迎しない)」が64.7%となっています。一人ひとりがバラバラになっていますよね。

(小石委員長) ある意味では, そう答えた人達はこれではだめだと思っている人ということにもなります。問題意識があるということです。

(林委員)平成5年の計画は「芦屋ブランド」を誇りにし、それにすがっているところがありますが、もういいのではないかと思います。

(山田委員)「らしさ」は変わります。また変えていかなければいけない。付加価値をつけていかなければなりません。

(小石委員長)「らしさ」の表現を取るか取らないかもありますが、我々がどういった街を目指しているのかということに結びつくのだと思います。

(田嶋主査)「芦屋らしさ」では表現できないのではないのでしょうか。多様性が芦屋らしさでもあるのではないのでしょうか。

(山田委員)それから、学習メニューの質についてですが、1つ1つの質が高く、良さをだしています。メニューの中身を、少なくともこれは必要であるということも考えていく必要があります。もっと市民に対し、積極的にアピールしていかなければいけないと思います。

(小石委員長)過渡期にどうアプローチするかですね。その質の高さですね。

(山田委員)今は流れに乗るときであり、今は留まってははいけませんよ。

(小石委員長)それでは最後に事務局からその他について説明をお願いします。

(田嶋主査)「個」に対するアプローチがしづらい状況です。行政の方向性を議論していただくとうかがいます。個々の対応についてはこういったものがふさわしいかなどを話し合っていたきたいと思います。

今後のスケジュール

お盆前に次回を行う予定。9月下旬に最終素案をだす予定。

(小石委員長)それでは時間がまいりましたので本日の会議は以上としたいと思います。